

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立大川内小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域の協力を受けながら教育活動を展開してきたことで、児童は地域の「人・もの・こと」に支えられながら成長している。地域との連携なくして本校教育活動の充実はないので、今後も更に各地区との連携を強め、児童の活動場が確保できるように努めていく。 学力面は、学習状況調査や他の諸調査からもわかるように、県平均を上回っている。一方で課題も明確になっているので、不断の授業改善に取り組み、教師の指導力向上に努めていく。また、2年間の活用力向上の研究指定を受けて学んだことを生かし、児童の活用力向上を目指して取り組んでいく。 挨拶や言葉遣いについてまだ課題が残る。学校の重点目標に掲げて取り組んできたが、なかなか全体的な向上にはつながらなかった。児童、保護者への呼びかけを継続し、それぞれ学年でも児童の実態に合わせて指導を工夫していかなければならない。 外遊びを奨励したり、児童の興味・関心に応じた運動の場を仕組んだりしながら児童の体力の向上を目指す。
2 学校教育目標	「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 — あいさつ 返事 意思表示 —
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の協力を受けながら教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、地域の「人・もの・こと」と連携し、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 常にすべての児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを意識した学習活動を展開する。また、校内研究を軸に、様々な問題に対してしっかりと見通しをもって粘り強く取り組み、豊かな表現力を生かしながら自分の思いや考えを進んで伝える児童の育成を目指す。 家庭や地域、専門機関との連携を図りながら児童の学習面や生活面の様子を見取っていく。

4 重点取組内容・成果指標

				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価		主な担当者
(1) 共通評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組							
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・校内研修等において、定期的にマイプランについて振り返る時間を設定し、意識化を図る。							
	○基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、自分の思いや考えを進んで伝えることのできる力の育成	○国及び県の学習状況調査やCRT踏査において、全国や県の平均値を上回ることを目指す。	・日々の授業において、西部型授業の実践を行い、児童の確かな学力の向上を目指す。 ・全担任が研究授業を行い、指導技術を高める。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○交流をしているときや、交流後に書く感想で、誰もが交流を持った相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる。	・特別支援学校との交流を行う。							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○開発的な教育相談に力を入れ、不登校傾向児童0を目指す。	・6月、10月にアンケート調査を行い、児童の友人関係や悩み等を把握する。 ・困っている児童について毎週情報交換の機会を設け、職員の共通理解を図るとともにSC、SSWと情報交換を密にし、連携を図りながら支援する。							
●健康・体づくり	○元気なあいさつや温かいことばで交流する児童の育成	「あいさつができてい」と言える児童の割合を90%以上、また、地域、保護者の割合を80%以上にする。 「言葉づかいに気をつけてい」と言える児童の割合を90%以上、地域、保護者の割合を70%以上にする。	・場に応じた言葉遣いやあいさつができるように、全職員で日常的に指導する。 ・学級指導や道徳などで、児童の実態に合わせて取り扱い、意識の向上を図る。							
	●「望ましい生活習慣の形成」	○病気による長期欠席児童0を目指す。	・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症について注意を呼びかけ、予防に努める。とくに規則正しい生活や正しい手洗いの仕方、感染症流行時にはマスクを着用することについては入念に指導し、常に衛生面に気を配るよう心がけさせる。 ・保健だよりや健康診断結果等を配布しながら、望ましい生活習慣の形成に必要な事項を各家庭に提供し、年間を通して心身の健康づくりを呼びかける。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○年間を通して運動に親しませ、体力の向上を図る取組	○アンケートで「外で遊んだり、運動したりするのが好き」と答える児童90%以上を目指す。	・なかよしタイム(縦割り活動)や水泳クラブ、持久走月間、縄跳び等の取り組みを通して運動に親しませ、体力の向上を図る。							
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日を定時退勤日とし、早めの退勤を呼びかける。 ・平日は、19時をめやすとし、また、月45時間以上の超過勤務がないように業務記録をもとに呼びかける。							
	○会議や事務の効率化	○会議の超過時間0を目指す。 ○誰もが手軽に必要な文書や授業の教材等を、校務サーバーから取り出せると感じられるように整理する。	・資料の事前配付と、資料を読んでからの参加を徹底したり、会議の開始、終了時刻を厳守したりする。 ・校務分掌や教材研究等に対する時間削減のために、文書や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。							

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	◎地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育活動	◎地域に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童90%以上を目指す。	・田んぼの学校やサマースクール、登下校中の見守り隊の方とのふれあいを通して、そのよさに気づかせ、感謝の気持ちを育む。							
○特別支援教育の充実	○特別な配慮を要する児童に対する個別の支援計画に基づいた支援	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を踏るとともに、専門家の話を通して理解を深める。	・特別な配慮を要する児童をリストアップし、丁寧な見取りを行う。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画について見直しを行う。							
○危機管理の強化	○通学路の安全点検及び安全指導 ○食物アレルギー等への対応	○交通事故0を目指す。 ○研修会を通して、全職員がアレルギーを持つ児童に対する正しい対応の仕方を身に付ける。	・地域の見守り隊との連携を図りながら、通学路の安全点検及び安全指導を実施する。また、集団下校時の話で、登下校のあり方について随時指導をしていく。 ・食物アレルギーを持つ児童を把握し、給食センター・担任・級外と連携し対応する。また、食物アレルギー研修会を実施する。							
○やりがいのある職場環境づくり	○相談し合える職員の雰囲気づくり	○誰もが大川内小学校の職員でよかったと思えるようにする。	・チーム大川内として、互いに声をかけ合い、生徒指導や特別支援教育上の諸問題への積極的な相談ができる雰囲気作りを行う。 ・子どもと向き合う時間の確保における課題を解決するために、級外による担任への協力や支援を行う。							